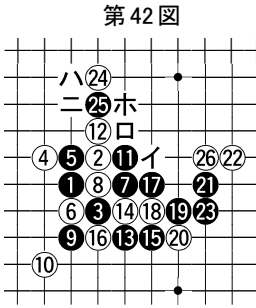


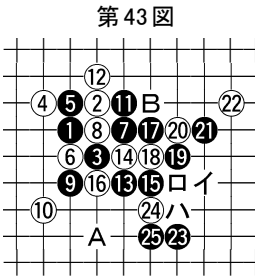
浦月四題目の解明(5)

九段 河村典彦

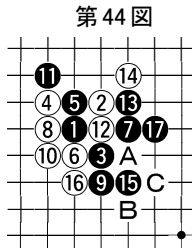
【第42図】白12での最後の防ぎ。白12と上辺重視で来られたら、当然黒は13と打つ。次に飛ぶか引くか迷う所だが、黒15と飛ぶ方が良いだろう。黒17のミセ手が絶好になる。両端が剣先のミセ手の場合には白18と中に入るのがたいていは強い。しかし、黒19が絶好の含み手となる。黒21後四追いがあるので白20が強いが、やはり黒21と引いて問題ない。黒23で両ミセで、白24と伸びても延長の四追いがある。黒27からイロハニホ。



【第43図】白20の変化。こちらに止められたら、当然下辺に進出することに成るが、一本黒11と逆に引くのが妙手。四追いがあるので白12は絶対だが、黒23と飛んで黒25で決まる。黒25後Aまたはイロハ。なお、白18を24またはBなら黒21と打ち、四追いを含めば以下容易だろう。

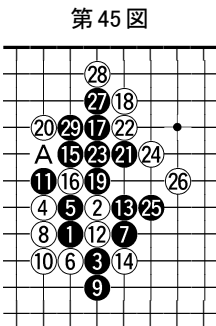


【第44図】白8と外側から押さえる手も自然で、非常に強い。ここで黒が10に打てば斜月外伝に戻る。もちろんそう打つのは損なので打ち替えることになるが、この一手の差は大きい。黒9が最も自然で良いだろう。白10の変化を順次調べることにする。この10は攻撃的ではあるが、お手伝いの意味もある。ここは黒11と引いた方に止めない方が良い。白12にも黒13と外から押さえる。こうして上下に勝ちを狙う。白14と上を止めたら黒15と下に向かう。16の点の三々は怖くない。結局白は16と押さえるぐらいだが、黒17とミセ手を打って以下容易。白16をAやBならCと引いて良い。

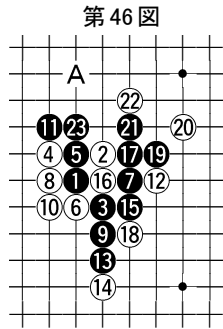


【第45図】白12は上下両睨みで防ごうという手である。これに対しては一本黒13と引いて様子を見る。もし白14で16な

【第46図】白12の変化。この12は上下両睨みで防ごうという手である。これに対しては一本黒13と引いて様子を見る。もし白14で16な

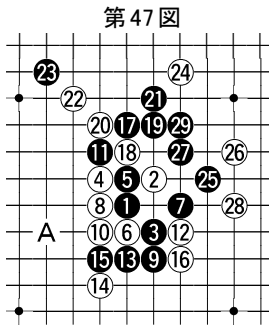


【第46図】白12の変化。この12は上下両睨みで防ごうという手である。これに対しては一本黒13と引いて様子を見る。もし白14で16な



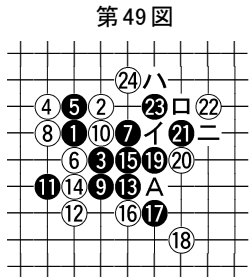
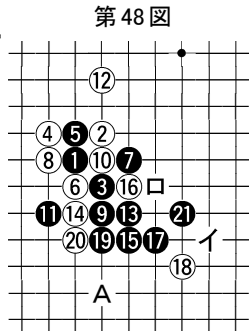
ら、下辺で勝てる。この14なら、黒15から飛び出していけば勝てる。黒17に白18が絶対止めになるのが黒13の効果である。黒19と引けるので、上辺で勝ちが発生する。黒23後Aまでとなる。

【第47図】同じく白12の変化。この地点は急所ではあるが、防ぎ一方のため迫力はない。ここは黒13、15と早めに下辺を処理しておく手を勧めておく。そうしておいて、上辺黒17に打つ。白18、黒19はこのあたりの呼吸のようなものである。この時黒13からの処理が役立つ。これを打っておかないと、白20でAという牽制手が発生しややこしくなる。白が防ぐなら20ぐらいだが、これも黒21と引ければ勝ちとしたものだ。白22をノビなければすかさず22と叩いておけば良い。黒29以下容易。

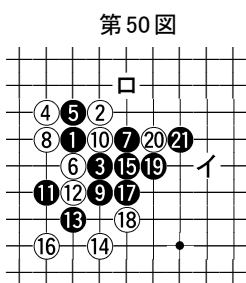


【第48図】白10の変化。前図のように白10と引くのではなく、単に根元を押さえておくのが非常に強い。この手に対しては、黒も三々が気になるが黒11と単に押さえておく。この手に対し、まずは白12と手抜きをした場合を考えてみよう。当然ここから追い勝ちがあるはずで、黒13から引いて行く。黒19まで引いて黒21と含む手が良く、これでAの四三とイロの含みが受からない。白の四ノビも無効である。

【第49図】したがって、白は止めに行かざるを得ない。まずは白12の防ぎから。この手に対しては引いて行く。黒13、15は当然で、白16をどちらに止めても17と伸びて19と組む。この形になればたいがい止まらない。白20と頭を押さえても、黒21が白にノリ手を与えない絶好の三引きとなっている。白22止めなら黒23とミセ、黒25からイロハニ。白22を反対なら、黒Aと打って良い。



【第50図】白12の変化。結局白もおとなしく三々を防いでおくのが最強防となる。黒13と二連を二つ作るのは、これしかないという一手。白の防ぎによって、どちらに展開するかを決める。白14がまずは強そうに見えるが、実はあまり強くない。黒15と引いた時に白16が絶対止めとなるからである。黒17と剣先を作りながら三を打てば、白に防ぐ術はない。黒19が決め手の含み手で、白20と止めても黒21と打ち、以下イロまでとなる。



なる。